

長崎被爆遺構フィールドワーク 資料①

松尾あつゆき句碑

松尾あつゆき（長崎商業学校教員 現在の活水大学裏の「食糧営団(食糧配給の全国組織)」で被爆 自由律)

爆死：妻千代子、長男ふみと（県立長崎中学1年）、二男ひろと（生後7カ月）、次女ゆきこ

生存：長女みちこ（茂里町の三菱兵器工場に動員、上半身火傷の重傷）

「降伏のみことのり 妻をやく火 いまぞ熾りつ」

1945年8月9日、原爆によって家族4人を失い、現在の伊良林小学校で妻を茶毘にふす。その時、ラジオから終戦の詔が聞こえてくる。「この戦争は何だったのか」、「妻は何のために死んだのか」、こみあげてくる虚しさを詠んだ句・・・



「何もかもなくした手に 四枚の爆死証明」

爆死証明とは、原爆で亡くなった人の死亡を記す公文書である。当時罹災証明の用紙はあったが、原爆による被害は想定に無く、爆死証明の用紙はなかったため、裏紙に警官が手書きしていた。現在、11通ある爆死証明のうち2通は、原爆資料館事務室に申し出れば、見ることができる。

爆死証明 展示に至る経緯

1980年8月13日の長崎新聞に、松尾けんいちろうさん(退職教諭)が、「自分の両親の爆死証明を、原爆資料館の前身である長崎国際文化会館の原爆資料室に、骨壺代わりに花瓶と共に両親の爆死証明を寄贈した」との記事が掲載されていた。

開示請求に対して、資料館側は「個人情報が入っているから見せられない」などとして抵抗した。

寄贈した本人を探したところ、定年退職を機に大村に転居した後、亡くられており、本人には会えなかった。しかし、長崎市に娘がいることがわかり、娘に会うことができた。

遺族として公開に同意するかとの質問に対して、「お役に立つならば」との回答を受けた。

娘の同意を受けても尚、資料館側は抵抗。しかし、この事がテレビや新聞で報道されると、一転、非公開から公開に至った。しかし、申請による閲覧のみで、常設展示はされていない。

あつゆきの句は、当時プレスコードの規制を受けており、1955年8月になってようやく世に出された。

プレスコード

非人道的な兵器を使ったにも関わらず、原爆製造計画の副責任者ファーレルは、9月上旬に東京で連合国特派員に向けた記者会見を開き、「広島・長崎では死ぬべきものは死んでしまい、九月上旬現在、原爆放射能のために苦しんでいる者は皆無だ。」との声明を発表した。その後、原爆に関する報道や文学を検閲により厳しく制限し、被爆調査に関する発表も事前許可を要求するなどのプレスコードを引いた。そのため、原爆の被害の事実を書いたり話したりすることはできなかった。

1954年 アメリカ・マーシャル諸島のビキニ環礁沖で行われた水爆(ブラボー)実験より、「危険区域外」で操業していた第五福竜丸が被爆。爆発による火球は、原爆で約250m。水爆ブラボーは約4.8kmにも及んだ。船員の久保山愛吉さんは半年後に死亡した。この事件によって、原水爆禁止の声が高まり、広島・長崎の被爆者の実態がようやく明らかになり始める。

1957年 原水爆禁止世界大会で、被爆の実態がようやく世界へ 「ノーモア ヒバクシャ」

長崎被爆遺構フィールドワーク 資料②

長崎誓いの火 灯火台

毎月9日と8月6日～9日の4日間、灯火される。(市民団体が管理)

長崎の誓い：長崎を最後の被爆地に

福島第一原発事故の被害を受けている福島に共通する部分がある。福島を最後の被爆地に

火：ギリシャ・オリンポス山の火 通常オリンピックの年にしか国外に出ない

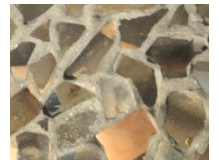
古代オリンピアの言い伝え 「聖火が灯されている間は、すべての戦いが止められた」

1983年8月、趣旨に賛同したギリシャ政府の特別な許可により、オリンピアの丘で採火された。



被爆瓦

原爆の熱線を受けたところは、瓦のガラス質が沸騰し気泡ができています。実験では 2000℃ の熱線を4秒照射すると同じ状態が現れた。



朝鮮人犠牲者の碑

この碑には13名の原爆犠牲者がいたとされているが、実際は創氏改名によって日本人名にされた朝鮮半島出身の人々もいて、16名とも考えられる。



外国人戦争犠牲者の碑

長崎市幸町(爆心地から2km)収容所には280人～400人の連合軍捕虜がいた。オーストラリア人、イギリス人、スイス人。長崎とオランダは歴史的に友好関係にあるといわれるが、戦後の捕虜補償問題についてオランダ人の被爆者のなかには反日感情があることも事実である。連合軍捕虜の被爆者についてはあまり語られていない。



原爆投下中心地公園 説明板

- ・中心に見える白い円柱が中心地碑
- ・木々の中心部だけが残っている。←真上から爆風を受けて、枝だけが無くなった。
- ・数百メートル離れた場所では、大木もへし折られていた



被爆地層

川に降りる階段を作っていた時に発見された。被爆当時の土地に周囲の瓦礫が運び込まれたことで、原爆投下中心地公園の地下には、被爆した家屋、そして住民の遺骨が今なお眠っている。原爆が投下された当時、爆心にはテニスコートがあったとされており、その周辺にはたくさんの住宅があった。



保存を訴えていた人が工事のようすを観察している時に、人骨が見つかった。階段の4段目。小さな頭蓋骨に乳歯が6本、そばがらの枕。これらは展示されていない。

家が立っていたイメージをさせる。爆心地は真上から真下に爆風が吹く。家がつぶれたらどこが一番上になるか、瓦から下が家。そこより上は、周りから運び込まれた、土の質が違う。人はどうなったか。

原爆投下前後に撮られていた航空写真から、たくさんの家屋が跡形もなく消し去られたことは、一目でわかる。子どもたちに想像させたいことは、その家の数だけ、そこには家族が生きていたこと。そして、原爆によって、一瞬で無残に命を奪われたこと…。



原子爆弾投下中心地碑

この碑を人差し指に見立てて上空を向かせることで見上げさせる。

1945年8月9日11時2分、この碑の約500m上空で、人類に向かって史上2発目の原子爆弾が投下された。1945年の12月までに、死者73884人、負傷者74909人と推定されている。大事なことは何度言ってもいい。



碑後方のプレートには、「原子爆弾落下中心地」と書いてある。しかし、「落下」は自然に落ちた場合に用いる語句である。原子爆弾は、自然に落下したものではなく、長崎の地へ、そこで暮らす人々の頭上へ明確な意思を持って落とされたのであり、「投下」という語句が適当である。

黙祷の前に・・・被爆当時の長崎の街・人々にどれだけ思いをよせることができるか。そのためには、目に見えるものだけでなく、被爆者のうめき声、8月の炎天下でなにもかもが焼け焦げた街を覆う暑さ、あたり一面に漂うにおいをイメージさせるよう語りかける。

標柱が三角形をしている理由は、三角測量法によって爆心地が決められたから。三ヶ所とは、浦上天主堂の「信仰の礎」の碑、旧長崎医科大学付属病院(臨床教室)の窓枠、浦上駅前にあった交番の窓枠

一代目 (1945年10月～)

理科学研究所職員の木村一治さんが熱線で焼きついた建物や煙突の影の方向や長さなどを基に爆心地を推定。松山町170番地、道路脇のテニスコート中央。スレート製煙突の欠片を置き、標識とした。

二代目 (1946年1月～)

中央右端にある棒。設置後10日ほどでなくなったといわれている。

三代目 (1946～1948年)

3枚の羽を持つ矢の形をしていた。爆心地の地番が記されている。



四代目 (1948～1955年)

木製の四角柱。側面には「地上五〇〇米にて炸裂」とある。

五代目 (1956年～)

三角柱。表面に蛇紋石。

六代目 (1968年～)

五代目の表面を黒御影石に貼り替え

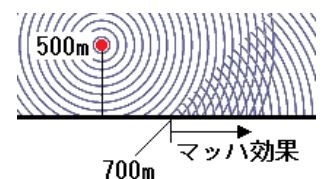


※1996年、長崎市出身の富永直樹が制作した「被爆50周年記念事業碑・母子像」と置き換える計画が出されたが、市民の反対運動が起こり、原子爆弾投下中心地碑が維持された。母子像の制作費は1億4700万円。キリスト教を抱くマリアの像、ピエタを想起させるもので、政教分離に違反すると訴えられた。

- ・ 長崎の原子爆弾は、中心地碑の上空約500mで炸裂。直径250m、数百万度の火球
- ・ 地表は約3000度。500m内で直接熱線を受けた人は、数秒で炭化されるほどの高熱
- ・ 木造家屋は粉碎されて、瞬間的に発火して全焼

<なぜ炸裂したのは上空500mなのか>

- ・ 原子爆弾の威力を最大限に発揮するため
- ・ マッハ効果、2つの衝撃波（直接波と反射波）が合わさって、さらに強力な衝撃波ができる
- ・ 衝撃波は、爆発による空気の膨張速度が音速を超えることで生じる。



長崎被爆遺構フィールドワーク 資料④

<原子爆弾開発に関わる歴史>

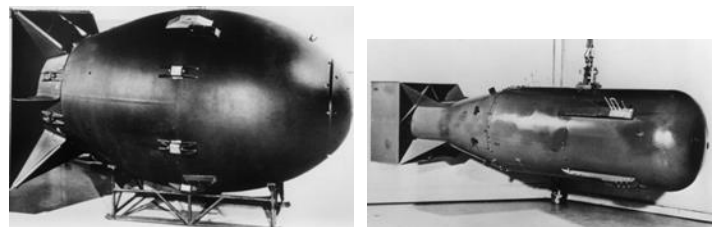
- ・ドイツ、ナチス、ヒトラー、反ユダヤ主義の法制化。→科学者たちが国外への脱出。主に英・瑞典
- ・1938年、オットー・ハーンが核分裂を発見
- ・ベルギー、ユニオン・ミリエール社、秘匿していたウラン鉱石 1250 t をNY湾内のスタッテン島へ
- ・1901～1945年のノーベル賞(物理学・化学部門)、ドイツ 29%、イタリア・占領国含 80%
- ・レオ・シラードがアインシュタインの手を借りてルーズベルト米大統領に原爆開発を訴える
- ・1941年、モード委員会報告書、イギリスの原爆研究成果がアメリカに提示され、米英で共同開発へ
- ・1942年、マンハッタン計画、当初予算 8500 万ドル、毎年6億ドル支出、累計 20 億ドル(6兆円)
- ・1945年7月16日、アラゴモードでの核爆弾実験(トリニティ)
- ・1945年7月20日から、パンプキン爆弾による爆撃訓練が始まる。
- ・1945年7月25日、原爆投下命令。
- ・1945年7月26日、ポツダム宣言が出される。→7月28日にポツダム宣言黙殺を発表

1945年7月16日アメリカ・ニューメキシコ州・アラゴモード砂漠で、30mの鉄のやぐらが組み立てられ、プルトニウム型原爆の爆発実験が行われた。その後、8月6日8時15分に広島にウラン型原爆が投下。8月9日、原爆投下の第1目標は北九州の小倉であったが、前日の八幡空襲による煙で視界が悪く、急遽第2目標の長崎に標的が変更された。長崎での投下目標は長崎市南部の常盤橋から賑橋の間(現在の眼鏡橋付近)であったが、9日長崎は曇天で視界が悪かったため、雲の切れ間があった松山町に原爆が投下された。一般には煙や曇天で爆撃を中止することはないが、原爆投下に当たっては、「地上を目視確認して投下すること」という条件があったため、このような事態が起こった。

広島型原爆と長崎型原爆

・原爆の開発は、当時アメリカ副大統領であったトルーマンにすら知らされていない最高機密事項

- ・原爆の存在そのものを伏せた形で弾体や爆撃機の開発をするため
- ・ウラン型原爆(広島)、砲身型、ルーズベルト米大統領→シンマン、5m→3m、リトルボーイ
- ・プルトニウム型原爆(長崎)、爆縮型、チャーチル英首相、ファットマン
- ・TNT火薬換算の爆発力　ウラン型原爆：16kt　プルトニウム型原爆：21kt
- ・21ktは、4tトラック5250台にダイナマイトを仕掛けて一気に爆発させる力の相当



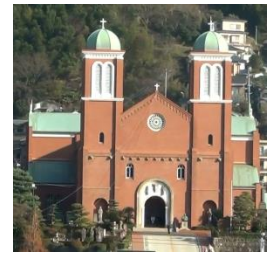
原爆投下の理由について、戦争の早期終結や米兵の犠牲を減らすためなど、様々なものがあるが、残された事実の中にはアメリカの原爆投下の本当の目的が見え隠れする。

- ・長崎は当時から兵器工場都市でもあり、真珠湾攻撃で使用した魚雷を製造していた。
- ・原爆の標的対象となっていた都市には、大部分が密集した木造家屋およびその他の建造物があり、原爆の効果を正確につかむために空襲による損害を受けていないなどの条件があった。
- ・当時の日本人が一番よく外に出ているのは8時頃だということをアメリカが調査していた。
- ・原爆投下の標的になっていた都市の航空写真が事前に撮られていたこと。
- ・ポツダム宣言が出される前日(7月25日)に、原爆投下命令が下されている。
- ・ウラン型原爆は量産できないが、プルトニウム型原爆は量産できる。

長崎被爆遺構フィールドワーク 資料⑤

浦上天主堂

- ・爆心から約500m。2人の神父と24人の信者が亡くなった。
- ・浦上地区では、約12000人いた信者のうち、約8500人が爆死したと言われている。
- ・左のドームは空、中の鐘は割れた。右のドームは鐘あり、奇跡的に割れなかった。
- ・1867年、浦上4番崩れ。3394人流刑。
- ・1873年、禁教が解かれ、信徒1900人が浦上に帰る
- ・1895年～1925年 信徒5000人の総意で天主堂建築。
- ・1945年、原爆により倒壊し、1958年に解体。翌年再建。



鐘楼ドーム

- ・直径5m、重さ50トン、爆風で35m飛ばされた。
- ・高瀬巖の著書 「長崎の原爆ドーム」
- ・川に落ちたが重すぎて動かせなかったため、川を動かした



長崎医科大学門柱

- ・爆心から約600m。職員299人、学生593人の合計892人が爆死。
- ・学長、東京出張の帰りに8月7日広島駅を通過中、被爆の状況を目の当たりにした。翌日、大学で職員・学生を集め、「長崎と広島には共通する点が多く、長崎も危ない。」として、10日から休学を予定していた。

被爆鳥居

- ・爆心から約800m
- ・想像で復元する。柱の跡の所に立ってもらう。上を見上げて、あと半分をイメージする。残っている柱の後ろに立って上を見上げると、ずれていることがよくわかる。
- ・柱の名前が見えないところがある。花崗岩の雲母が溶けている。爆心地方向がわかる。
- ・石を溶かすほどの熱線が、人や他の生き物に当たった事を想像させる。
- ・一の鳥居は被爆後も残っていたが、トラック事故で破損。
- ・三の鳥居は坂本町民原子爆弾殉難の碑に使われている（山王地区780人、生存者20人ほど）



山王神社の大楠

- ・大楠のどちらが大きく被害を受けたか想像させる。→写真を見て確認。
- ・70年は草木も生えない → その年の秋には芽が生えた。ただし爆心地と反対方向に
- ・木は元々の高さの半分になってしまった。
- ・大楠の大治療のため、熱線の跡は直接は見れない。中は空洞になっている。
- ・葉の触れあう音は、長崎では唯一の「残したい日本の音風景100選」
- ・熱線を受け、焼けただれた体で治療を受ける少女の写真。後ろにいる看護師、生きていることを伝えることで子どもの反応が変わる。写真は、どんなタイミングで、どのような説明を付加して与えるかが重要。
- ・「かわいそう」から「こわい」へ。戦争や核兵器の問題が、自分たちの生存に関わるものであることに気付くことが、平和の大切さや核廃絶の重要性を真剣に考える態度に繋がる。
- ・子どもたちが未来に希望を持って行動できるようにするためには、私たち自身が戦争や核兵器のない平和な未来を実現できることを信じ学び続けなければならない。



長崎被爆遺構フィールドワーク 資料⑥

平和祈念像

- ・戦後10年、募金2000万円（現在の5億円）を使って、北村西望が制作。
- ・台座の費用2000万円は長崎市が負担した。
- ・一般には、長崎平和都市の象徴として扱われているが・・・



福田須磨子

- ・長崎男子師範学校会計課に勤務中、1.8キロで被爆
- ・1955年、被爆後遺による紅斑症を発病し、入退院を繰り返す。
- ・朝日新聞掲載の詩 ～ひとりごと～

何もかもいやになりました 原子野に屹立する巨大な祈念像
それはいい それはいいけど そのお金でなんとかならなかったのか
石の像は食えぬし 腹の足しにもならぬ さもしいと言ってくださいな
原爆後10年をぎりぎりに生きる 被爆者の偽らざる心境です

長崎刑務所浦上刑務支所

- ・爆心から約300m。厚さ22cmの鉄筋コンクリート造り。
- ・建物の基礎部分と刑務所を囲んでいた壁（高さ4.5m）が残っている。
- ・現在の高等裁判所にあたる「控訴院」があり、九州で死刑が確定した囚人が連れてこられていた。
- ・職員19人、家族35人、受刑者81人（中国人32人、朝鮮人13人）の135人が全員即死。
- ・半数以上がアジアの人だった。なぜか → 強制連行されていた
- ・中国人32名が提訴。戦争に時効はないぞ！最高裁までいったが全て敗訴。
- ・戦後67年、ここで起こった事は未だに終わっていない。
- ・長崎は平和を発信する都市というイメージがあるが、2度に渡る平和市長の銃撃、イージス艦を製造、魚雷、日本有数の兵器生産都市、自衛隊基地2位、米軍基地4位という影の部分をは忘れてはいけない。

当時、長崎県内には約7万人の朝鮮人が在住していたことが内務省警保局の資料により推定されている。そのうち約3万人が長崎市周辺に居住し、うち2万人が被爆、1万人が死亡したと考えられている。1939年「国家総動員法」に基づく「労働動員計画」を立て、朝鮮人「労働者」の集団募集、日本移入に着手した。朝鮮人の確保は絶対的な至上命令であり、形式的には「募集」といっても、自由意志によるものではなく強制だった。強制連行されてきた朝鮮人は、炭坑や鉱山や土木現場で過酷な労働を強いられた。「端島資料」によると、1944年と1945年の朝鮮人の死亡は日本人の2倍近い。また、朝鮮人の死亡原因は窒息、圧死、溺死、事故死など変死の割合が病死を上回っており、労働現場でいかに差別・虐待されていたかを告発している。

《 長崎高島 被連行者 連双印さん 》

食事は毎回2個の小さなマントウで、その重さは1個約1両（50g）にすぎず、それと非常に薄い海藻の吸い物が1椀あるだけだった。とても空腹だった。みな栄養不足に陥り、4ヶ月も過ぎると多くの人の体にむくみができて、休みを願い出る人が多くなった。日本人はわざと仕事をさぼって混乱させていると言って、病気の重いものを外に引きずり出し、全員を集めて、「お前達はぶちこわそうとしている」といって、二人の若い中国人に「殴れ！容赦なく殴れ！」と命令した。その二人が同胞を殴ることができないと拒否すると、ほかの中国人に殴れと言ったが、同様に誰も殴らなかった。とうとう、日本人は怒りだして、大きい木の棒を取ってその病人を殴り始めた。何回か殴って、その病人を殴り殺してしまった。

長崎被爆遺構フィールドワーク 資料⑦

中国人原爆犠牲者追悼碑（浦上刑務支所）

- ・（碑文）この地で原子爆弾によって非業の死を遂げた中国の方々を追悼するとともに非戦と核廃絶を誓ってこの碑を建立する。
- ・ 2008年7月7日（月）建立 盧溝橋事件（日中戦争の発端となった事件）の日。
- ・ 中国人は捕虜として収容所にいれられた。国際法で労働をさせることはできなかったため、労務契約という形式的な形をとり働かせていた。また朝鮮人は皇民化政策で日本人として扱われ強制労働に従事させられた。
- ・ 治安維持法によって、朝鮮独立運動にもかかわった人々が徹底的に弾圧され捕らえられ収容された。
- ・ 収容された人々の犠牲者は、中国人32名と記載されているが実際はあと1名（中国旧熱河省出身の劉鳳学さん）いたと考えられている。これに対し、長崎刑務所は入所を確認できる被収容者身分帳などの資料の保存期間が30年であることから、「既に破棄されたとみられる」などと回答している。
- ・ 1945年8月9日は木曜日で、点呼日で収容所内にいたため全員被爆、即死した。
- ・ 長崎警察署作成の『屍体検死名簿』によると33名の氏名が判明している。
日鉄鋳業鹿町工業所…中国人が200名働き、6名が刑務所につれてこられ、原爆の犠牲になった。
三菱鋳業崎戸工業所…600名余りが働き、27名が刑務所につれてこられ、原爆の犠牲になった。



乙女の像

- ・ 中国の北京にも同じモニュメントがあり、対面で両国の恒久平和を祈っている。
- ・ 1985年7月、胡耀邦 当時の国家主席（13億の民のトップ）
- ・ 1987年に赤ペンキがかけられる事件が起こった。
- ・ 台座の周辺（柵、センサー、植え込みが3重、監視カメラが2つ、照明）
- ・ 私たち日本人がどういう力を備えた時に、他のモニュメントと同じ扱いになるか



平和公園傍 防空壕

- ・ 2011年10月、エスカレーター設置の工事作業中に発見され、全部で4つあった。
- ・ 米国戦略爆撃調査報告書（調査は45年10月から約2カ月間）
「長崎で最も教訓的な事実は爆心地付近においてさえ、横穴式防空壕に入っていた数百人の人々は生き延びたということである」「どのような攻撃からも収容者を保護できることに疑いの余地はない」
- ・ 全ての防空壕の保存を訴える被爆者の会の声は行政に押し切られ、部分保存となった。戦争の悲惨さを原爆投下の惨禍を風化させないために、その史実を語るものを私たちは1つでも多く残す努力をすべきではないのだろうか。

